

第19回認知神経リハビリテーション学会学術集会

テーマ『病態を深化する』

| 9月29日(土曜日) |        |      | 第1会場<br>(大ホール)  | 第2会場<br>(研修室)   | 第3会場<br>(展示ホール) | 第4会場<br>(レセプションホール)       |
|------------|--------|------|---|---|-----------------|---------------------------|
| start      | finish | time |   |   |                 |                           |
| 9:30       | 10:20  |      | 受付(大ホール前)   |   |                 |                           |
| 10:20      | 10:50  | 30   | 学会長講演:奥埜博之(摂南総合病院)<br>『病態を深化する眼差し』  |   |                 |                           |
| 11:00      | 12:30  | 90   | 特別講演①:吉田正俊(生理学研究所)<br>『見えると気がつくとはどう違うか:盲視と半側空間無視の動物モデルの研究からの知見』<br>司会:森岡周(畿央大学)   |   |                 |                           |
| 12:30      | 13:00  | 30   | 総会(学会会員のみ)  |   |                 |                           |
| 昼休み        |        |      |   |   |                 |                           |
| 13:30      | 15:00  | 90   | 特別講演②:田中彰吾(東海大学)<br>『運動学習における身体イメージの役割を再考する』<br>司会:園田義顕(高知医療学院)   |   |                 |                           |
| 15:10      | 16:40  | 90   | 指定シンポジウム①<br>『片麻痺と失調症の病態を深化する』<br>赤口諒(摂南総合病院)<br>『外部観察では捉えにくい「力」を評価し病態を深化する試み』<br>高村優作(村田病院)<br>『空間性注意を含めたプランニングに対する介入によって運動制御の改善を認めた感覚性失調症例』<br>國友晃(愛宕病院)<br>『筋緊張の自覚の低下が適切なプレシューピングを困難にしている慢性期片麻痺患者～手指運動出力の差異に着目して～』<br>司会:安田真章(脳梗塞リハセンター)     | 臨床実践報告①:<br>山中遼平(訪問看護ステーション げいせい)<br>『両側THA術後の歩行障害に対する課題展開の工夫～統合失調症の病態を考慮した介入～』<br>①～③座長:玉木義規(甲南病院)                     |                 |                           |
|            |        |      |   | 臨床実践報告②:<br>横山航太(新札幌パウロ病院)<br>『橋出血後の上肢の到達機能と接近機能について～運動イメージを用いた介入によって企図振戦の制御が可能となった症例～』                                 |                 |                           |
|            |        |      |   | 臨床実践報告③:<br>福澤友輝(ファミリアキッズ門真)<br>『ASD児におけるコミュニケーション障害の病態を深化する:友だち同士の関わりに焦点を当てた療育介入の試み』                                   |                 |                           |
| 16:50      | 18:20  | 90   | 指定シンポジウム②<br>『神経難病の病態を深化する』<br>谷川浩平(美原記念病院)<br>『すくみ足の病態解釈～パーキンソン病認知症の一症例を通して～』<br>壹岐伸弥(川口脳神経外科リハビリクリニック)<br>『パーキンソン病の静止時振戦の病態を深化する試み～認知的負荷時の注意分配に着目して～』<br>坪内綾香(国立精神医療研究センター病院)<br>『パーキンソン病の首下がりに対するリハビリテーション～感覚統合異常に着目したアプローチ～』<br>司会:安藤努(原病院) | 臨床実践報告④:<br>林田佳子(青磁野リハビリテーション病院)<br>『皮質下出血による錯語・喚語困難を発話量・オーバーリアクションで代償した一例～相互理解のための対話構築に向けて～』<br>④～⑥座長:稲川良(水戸メディカルカレッジ) |                 | ポスター貼りつけ<br>(15:00～18:00) |
|            |        |      |   | 臨床実践報告⑤:小倉亮(村田病院)<br>『左半球損傷患者における社会的促進・抑制の障害と視点取得能力との関連性』   |                 |                           |
|            |        |      |   | 臨床実践報告⑥:<br>大住倫弘(畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター)<br>『難治性疼痛症例における上肢運動の異常パターンから病態を推定する』  |                 |                           |
| 19:15～     |        |      | レセプション受付開始 (会場:ホテル・アゴーラ大阪守口 2Fバンケットルーム)   |   |                 |                           |
| 19:30～     |        |      | レセプション開始  |   |                 |                           |

| 9月30日(日曜日) |        |      |  |   |                 |                     |
|------------|--------|------|--|---|-----------------|---------------------|
| start      | finish | time | 第1会場<br>(大ホール)   | 第2会場<br>(研修室)   | 第3会場<br>(展示ホール) | 第4会場<br>(レセプションホール) |
| 9:15       |        |      | 受付(1F大ホール前)  |   |                 |                     |
| 9:30       | 10:30  | 60   |  | 10:00~11:00<br>口述発表 6演題<br><br>座長:池田由美(首都大学)  | 一般演題発表(ポスター)    |                     |
| 10:30      | 11:30  | 60   |  |   | 奇数              |                     |
| 11:40      | 12:30  | 50   |  |   | 一般演題発表(ポスター)    |                     |
|            |        |      | 偶数   |   |                 |                     |
|            |        |      | <p>教育講演①:<br/>川口琢也(川口脳神経外科リハビリクリニック)</p> <p>『脳画像からの病態理解と認知神経リハビリテーションへの期待』</p> <p>司会:信迫悟志(畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター)</p>   |   |                 |                     |
| 昼休み        |        |      |  |   |                 |                     |
| 13:30      | 14:20  | 50   | <p>教育講演②:<br/>浅野大喜(日本パプテスト病院)</p> <p>『発達障害における歩行障害の病態を深化する(仮)』</p> <p>司会:木村正剛(北海道立子ども総合医療・療育センター)</p>  | <p>臨床実践報告⑦:<br/>及川岳(もりおか往診ホームケアクリニック)</p> <p>『行為の学習に向けたモダリティの探求<br/>～視床出血損傷症例を通じて～』</p> <p>⑦～⑧座長:<br/>江草典政(島根大学医学部附属病院)</p> | ポスター撤去          |                     |
|            |        |      | <p>臨床実践報告⑧:<br/>山下浩史(SKY整形外科クリニック)</p> <p>『複雑な病態を呈した疼痛の解釈～腰椎経椎間孔椎体間固定術(TLIF)施行後1年で疼痛が再燃した症例の経験～』</p>   |   |                 |                     |
| 14:30      | 15:30  | 60   | <p>特別企画シンポジウム<br/>『病態理解に基づいた認知神経リハビリテーションの適応を考える』</p> <p>パネリスト:<br/>宮本省三(高知医療学院)、<br/>濱田裕幸(サントルソ認知神経リハビリテーションセンター)、<br/>河野正志(村田病院)、<br/>本田慎一郎(青い鳥コミュニティー)</p> <p>司会:奥埜博之</p> |   |                 |                     |
| 15:30      |        |      | Finale   |   |                 |                     |

# 第19回認知神経リハビリテーション学会学術集会

## テーマ 『病態を深化する』

1日目 2018年9月29日(土)

9:30-10:20 受付

10:20-10:50 ■学会長講演

『病態を深化する眼差し』

講師：奥埜博之（摂南総合病院）

11:00-12:30 ■特別講演①

『見えると気がつくとはどう違うか：盲視と半側空間無視の動物モデルの研究からの知見』

講師：吉田正俊（生理学研究所）

司会：森岡周（畿央大学）

12:30-13:00 総会（学会会員のみ）

13:30-15:00 ■特別講演②

『運動学習における身体イメージの役割を再考する』

講師：田中彰吾（東海大学）

司会：園田義顕（高知医療学院）

15:10-16:40 ■指定シンポジウム①（第1会場）

ー 片麻痺と失調症の病態を深化するー

司会：安田真章（脳梗塞リハセンター）

『外部観察では捉えにくい「力」を評価し病態を深化する試み』：赤口諒（摂南総合病院）

『空間性注意を含めたプランニングに対する介入によって運動制御の改善を認めた感覚性失調症例』：高村優作（村田病院）

『筋緊張の自覚の低下が適切なプレシェーピングを困難にしている慢性期片麻痺患者～手指運動出力の差異に着目して～』

：國友晃（愛宕病院）

■臨床実践報告①～③（第2会場）

座長：玉木義規（甲南病院）

① 『両側THA術後の歩行障害に対する課題展開の工夫～統合失調症の病態を考慮した介入～』

：山中遼平（訪問看護ステーション げいせい）

② 『橋出血後の上肢の到達機能と接近機能について～運動イメージを用いた介入によって企図振戦の制御が可能となった症例～』：横山航太（新札幌バウロ病院）

：横山航太（新札幌バウロ病院）

③ 『ASD児におけるコミュニケーション障害の病態を深化する：友だち同士の関わりに焦点を当てた療育介入の試み』

：福澤友輝（ファミリアキッズ門真）

16:50-18:20 ■指定シンポジウム②（第1会場）

ー 神経難病の病態を深化するー

司会：安藤努（原病院）

『すくみ足の病態解釈～パーキンソン病認知症の一症例を通して～』：谷川浩平（美原記念病院）

『パーキンソン病の静止時振戦の病態を深化する試み～認知的負荷時の注意分配に着目して～』

：壺岐伸弥（川口脳神経外科リハビリクリニック）

『パーキンソン病の首下がりに対するリハビリテーション～感覚統合異常に着目したアプローチ～』

：坪内綾香（国立精神医療研究センター病院）

■臨床実践報告④～⑥（第2会場）

座長：稲川良（水戸メディカルカレッジ）

- ④ 『皮質下出血による錯語・喚語困難を発話量・オーバーリアクションで代償した一例～相互理解のための対話構築に向けて～』：林田佳子（青磁野リハビリテーション病院）
- ⑤ 『左半球損傷患者における社会的促進・抑制の障害と視点取得能力との関連性』：小倉亮（村田病院）
- ⑥ 『難治性疼痛症例における上肢運動の異常パターンから病態を推定する』：大住倫弘（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）

2日目 2018年9月30日（日）

|             |  |
|-------------|--|
| 09:15       | 受付   |
| 9:30-11:30  | ■一般演題発表（第3会場・第4会場）   |
| 9:30-10:30  | 奇数番号   |
| 10:30-11:30 | 偶数番号   |
|             | ■口述発表（第2会場）  |
| 10:00-11:00 | 座長：池田由美（首都大学東京）  |
| 11:40-12:30 | ■教育講演①<br>『脳画像からの病態理解と認知神経リハビリテーションへの期待』<br>講師：川口琢也（川口脳神経外科リハビリクリニック）<br>司会：信迫悟志（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）  |
| 13:30-14:20 | ■教育講演②<br>『発達障害における歩行障害の病態を深化する』（仮）<br>講師：浅野大喜（日本バプテスト病院）<br>司会：木村正剛（北海道立子ども総合医療・療育センター）   |
|             | ■臨床実践報告⑦～⑧（第2会場）   |
|             | 座長：江草典政（島根大学医学部附属病院）   |
|             | ⑦ 『行為の学習に向けたモダリティの探求～視床出血損傷症例を通じて～』<br>：及川岳（もりおか往診ホームケアクリニック）  |
|             | ⑧ 複雑な病態を呈した疼痛の解釈～腰椎経椎間孔椎体間固定術（TLIF）施行後1年で疼痛が再燃した症例の経験～』<br>：山下浩史（SKY整形外科クリニック）   |
| 14:30-15:30 | ■特別企画シンポジウム<br>『病態理解に基づいた認知神経リハビリテーションの適応を考える』<br>パネリスト：宮本省三（高知医療学院）<br>濱田裕幸（サントルソ認知神経リハビリテーションセンター）<br>河野正志（村田病院）<br>本田慎一郎（青い鳥コミュニティー）<br>司会：奥埜博之 |